

市長 來住 壽一

おいしく安全な給食

7月は文月。七夕の短冊に歌や字を書いて書道の上達を願った「文披月(ふみひらづき)」が転じたものとか、七夕に書物の虫干しをする習慣から文月と呼ぶようになったそうです。

日に日に暑くなります。ご自愛ください。学校は、20日から夏休み。18日の給食が、現在のセンターで作る最後になります。2学期から新しい給食センターで調理します。

学校給食センターは、現在、西脇と黒田庄別々に2つあります。黒田庄はまだ新しいのですが、西脇は昭和45年の建設で、老朽化への対応とより安全な調理施設への改修が課題でした。それを建て替えて、統合します。

学校給食の役割は、大きく変わりました。昭和45年当初はパン給食でしたが、今は、週3回がご飯給食。強度の磁器食器で汁物も運べます。地元農家の皆さんに安全安心な野菜を作っていただき地産地消を進めています。今年から、ご飯は市内産米、地域特産物の「日本のへそ・金ごま」や地域ブランド商標を受けた黒田庄和牛も給食に取り入れます。子どもたちにも西脇市の特産物をしっかりと認識してもらえたら嬉しいことです。

食物アレルギーにも代替え食材を使うなど、きっちりと対応していきます。

学校給食は、食事の大切さや栄養バランスの大切さ、食のマナー、食に対する知識などを学ぶ食育の実践の場となっています。家庭へ献立表をお配りしていますので、家庭と学校、さらには、地域や関係団体も加わっていただき、食育を推進したいと願っています。

小中学校や教育施設の建て替えや耐震工事も残すところあとわずかとなりました。西脇小学校木造校舎も間もなく設計に取り掛かります。現在の外観を壊すことなく、できるだけ早く進めていきます。未来を託す子どもたちがよく学び、遊ぶことができる学校教育環境の整備に取り組んでいきます。

今年は、富良野市との友好都市締結35周年に当たり、市民訪問団とともに「北海へそ祭り」に参加し、交流を深めます。

暑い夏を元気に乗り切ってください。

西脇市立北はりま農産物直売所「北はりま旬菜館」は循環型農業の推進とともに地産地消、地元農業の育成などに寄与するため平成23年7月8日にオープンしました。当時、新鮮な地場産の農産物や巻き寿司などが店頭を彩る一方、玉ねぎや白菜などが旬の時期に集中しすぎたり、

夕方には商品が少なくなりお客さまにご迷惑をおかけすることもありました。そのような経験を積みながら少しずつではありますが、お客さまのために、また、農家のための農産物直売所に成長しています。7日には開業2周年を迎えます。市内出荷者は109名

あぐいっくコラム 59 自然の恵みを人から人へ 北はりま旬菜館「ありがとう2周年みんなの夏祭り」



(平成25年4月1日現在)。農薬・化学肥料の使用を抑えた栽培に努め、安全で安心かつ西脇の自然にやさしい農業を實踐し、今からは「西脇ファーマーズブランド」の農産物の販売がスタートします。また、6日、7日には、2周年記念イベントを開催します。出荷者協議会による旬の野菜を使ったレシピの試食会や西脇多可つたの会による地元食材を使ったバラエティーに富んだ加工品の対面販売を行います。

この機会に地元西脇を食の面からも楽しんでみませんか。皆さまのご来場を心からお待ちしております。

西脇市消費生活センター (生活環境課内) ☎22-3111

No.94 | またまた急増！ 還付金詐欺にご注意！

電話で市役所や社会保険事務所などの公的機関の職員をかたり、「医療費や保険料の還付をする」と持ちかけ、還付手続きのためと言って、ATMへ誘導し送金を促す事案が発生しています。最近では、警戒が厳しい銀行などのATMではなく、コンビニやスーパーなどのATMに誘導するケースが目立っています。また、口座番号などの情報を聞き出してくるケースもあります。相手は、「期限が今日まで」などと急かしますが、一度支払ってしまうと、お金を取り戻すことが極めて困難になります。還付金の受け取りのために、公的機関の職員がATMの操作をさせることや、口座の情報を電話で聞き出すことはありません。また、ATMを操作して還付金が返ることもありません。相手の名前や電話番号を必ず確認し、不審に感じたら関係機関に問い合わせましょう。



男女共同参画セミナー「絵本を通じて楽しむ男女共同参画」

「紅一点じゃ、足りない。」、「女性が輝く、ニッポンが輝く。」これらは、内閣府の男女共同参画局が募集した平成25年度男女共同参画週間キャッチフレーズの最優秀・優秀賞受賞作品です。現在、わが国は、さまざまな課題を抱えています。少子高齢化の進展と人口減少社会の到来、家族や地域社会の変化、経済の長期的低迷と閉塞感の高まりなどを挙げることができ、これらを打破するためには女性パワーの活用が欠かせません。以前は、「男性は家族のために外で働き、女性は家庭で家事育児等を担う」という役割分担意識が当たり前でしたが、この固定観念が長く女性の社会進出を妨げてきたとされています。しかし、近年は、男女雇用機会均等法や介護・育児休業法の施行、子育て支援施策の充実、男女共同参画に配慮した学校教育など関係各所の取り組みによって、次第に女性が社会で活躍する場面が増えてきています。

ところで、こんな統計結果があります。2012年の世界経済フォーラムのレポートによると、日本の男女平等度は、135カ国中101位、特に経済分野では、102位、政治分野では110位となっています。世界の中では、日本はまだまだ女性が活躍できない環境にあるようです。また、この報告では、男女の格差をなくすことで女性の社会進出が進み、その結果、日本のGDPが16%増えるとの研究も紹介されています。この事例は、女性の社会進出による経済的な側面だけを捉えたものに過ぎませんが、ひとつの大きな可能性を示したものと見えそうです。男女共同参画は特別なことではありません。男女が対等なパートナーとして、社会のあらゆる分野で共に活躍できる社会を目指して、まず、わたしたちの日々の暮らしの中で、できることから考え、行動してみませんか。

市内各地区での人権教育推進組織の総会も終わり、本格的な活動が始まっています。また本年度「黒田庄地区人権のまちづくり協議会」が設立されました。研修の機会がさらに充実し、人権文化の花が大きく咲きほこることを期待してやみません。各地区では、地域の実情や人権課題に応じて、各町・自治会選出の人権教育推進員が中心となった研修が継続して行われています。「私は、今年度初めて人権教育推進員という役を受けました。正直少し戸惑いましたが、『自分自身が成長できるきっかけになればいいな』と思ひ引き受けました」と言われることがよくあります。人権教育に関しては、「特別なもの」といったイメージを抱いている方が多いのを感じています。辞書や教科書的な意味ではなく、自分の言葉で説明すると意外と難しい「人権」。そもそも、「人権」とは何なのか、どうして人権教育・啓発の研修が大切であり、必要なのでしょうか。

人権については、いろいろな方がありますが、「誰もが、自分らしく幸せに生きることを保障するもの」「どんな個性やちがいをもって生まれても、誰もが夢をもつことができ、その実現が妨げられないもの」だと思いませんか。そして研修の場は、普段疑問に思っていることを率直に尋ねたり、正しい知識や新しい情報を身につけたりすることにより、さまざまな課題を自分のこととしてとらえ直すことができるからこそ、大切なのだと思います。8月は、「人権文化をすすめる市民運動推進強調月間」です。本年度も各地区での講演会を中心に、市内小中学生の人権標語ポスターの展示等、さまざまな啓発活動を行う予定です。ぜひご参加いただき身近な人権課題を「自分自身」の課題としてとらえる機会に、また、まちづくりの中に人権の視点を置き、誰もが住みよいまちを目指す機会にしていきたいと思います。

好きです!! にしわき わたしのふるさと

今、この時を輝いて生きる 一次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

世界の中で、日本の男女平等度は… 男女のよりよいパートナーシップで元氣な西脇へ

「紅一点じゃ、足りない。」、「女性が輝く、ニッポンが輝く。」これらは、内閣府の男女共同参画局が募集した平成25年度男女共同参画週間キャッチフレーズの最優秀・優秀賞受賞作品です。現在、わが国は、さまざまな課題を抱えています。少子高齢化の進展と人口減少社会の到来、家族や地域社会の変化、経済の長期的低迷と閉塞感の高まりなどを挙げることができ、これらを打破するためには女性パワーの活用が欠かせません。以前は、「男性は家族のために外で働き、女性は家庭で家事育児等を担う」という役割分担意識が当たり前でしたが、この固定観念が長く女性の社会進出を妨げてきたとされています。しかし、近年は、男女雇用機会均等法や介護・育児休業法の施行、子育て支援施策の充実、男女共同参画に配慮した学校教育など関係各所の取り組みによって、次第に女性が社会で活躍する場面が増えてきています。

心のスケッチ 人権とは？

人権教育室コラム

市内各地区での人権教育推進組織の総会も終わり、本格的な活動が始まっています。また本年度「黒田庄地区人権のまちづくり協議会」が設立されました。研修の機会がさらに充実し、人権文化の花が大きく咲きほこることを期待してやみません。各地区では、地域の実情や人権課題に応じて、各町・自治会選出の人権教育推進員が中心となった研修が継続して行われています。「私は、今年度初めて人権教育推進員という役を受けました。正直少し戸惑いましたが、『自分自身が成長できるきっかけになればいいな』と思ひ引き受けました」と言われることがよくあります。人権教育に関しては、「特別なもの」といったイメージを抱いている方が多いのを感じています。辞書や教科書的な意味ではなく、自分の言葉で説明すると意外と難しい「人権」。そもそも、「人権」とは何なのか、どうして人権教育・啓発の研修が大切であり、必要なのでしょうか。

人権については、いろいろな方がありますが、「誰もが、自分らしく幸せに生きることを保障するもの」「どんな個性やちがいをもって生まれても、誰もが夢をもつことができ、その実現が妨げられないもの」だと思いませんか。そして研修の場は、普段疑問に思っていることを率直に尋ねたり、正しい知識や新しい情報を身につけたりすることにより、さまざまな課題を自分のこととしてとらえ直すことができるからこそ、大切なのだと思います。8月は、「人権文化をすすめる市民運動推進強調月間」です。本年度も各地区での講演会を中心に、市内小中学生の人権標語ポスターの展示等、さまざまな啓発活動を行う予定です。ぜひご参加いただき身近な人権課題を「自分自身」の課題としてとらえる機会に、また、まちづくりの中に人権の視点を置き、誰もが住みよいまちを目指す機会にしていきたいと思います。